

OPINION

中部経済新聞

イランは中東地域の発展途上国です。国連報告によると2022年の「人間開発指数」は世界193カ国中78位でした。人口は9千万人以上、面積は165万平方キロメートルで、日本の4倍以上あります。西アジア地域に位置し、ペルシヤ

ナヒゲーター

湾と戦略的なホルムズ海峡に巨大な国境を持ちます。また南アジア、中央アジア、コーカサス、地中海東部、ペルシヤ湾を結ぶ要衝に位置し、石油、ガス、銅などの貴重な鉱物資源を持つていることが特色です。

イランの国家計画は5カ年

期待の日本へ 世界各地から

H

102

新大統領による経済成長の方向性

計画に基づいており、現在イランでは24年から28年までの第7次発展計画が展開されています。この計画は政治、経済、文化、社会の四つの切り口での発展を機軸としています。一方、第7次計画の実施と時を同じくして、マスード・ペゼシキアン新大統領による政権が活動を開始し、この枠組みの中で優先づけを行いました。イランの第7次発展計画における経済発展指標と第14代政府、すなわちマスード・ペゼシキアン博士による5年間の成長目標は次の

イランから

とあります。

経済成長率8%、製造業における生産性向上率8.2%、石油輸出成長率12%、非石油輸出成長率23%、水・電気・ガス成長率8%、鉱業成長率13%、運輸・倉庫業成長率10%、工業成長率8.5%、農業成長率5.5%、建設業成長率9%、石油関連成長率9%、通信関連成長率11%、その他サービスの成長率6.5%となっています。

ペゼシキアン政権が発足、新内閣が組閣されて、新大統領は第7次発展計画の

展開に向けた経済的優先事項を以下のように発表しました。

①第7次発展計画に記述される経済成長指標の重視②制裁解除と世界的交流の進展のための国際交渉の開始③海外からの投資強化のための魅力アップ④世界各国とくに日本やドイツとの貿易関係強化⑤石油および非石油輸出の強化

⑥知識集約型企業と新技術開発の重視⑦電子政府の全面的確立に注力⑧エネルギー消費削減とエネルギー不均衡への特別な配慮⑨住宅建設年間1

00万戸と廉価な住宅建設への特別な配慮⑩工業、鉱業、農業における生産性向上のための新技術活用⑪乗客が質の高い移動ができるような公共交通機関の導入⑫通信インフラ整備と情報技術発展に注視⑬物価水準の安定とインフレの抑制⑭国民購買力の向上と通貨価値の強化。

ペゼシキアン新大統領は、経済的な発展は世界との対話なしには達成できない、それなくしては第7次発展計画で定義される8%の経済成長は達成できないと確信

しています。イランの発展には国際的なコンサルタントを活用することだと確固たる信念を持っています。イランが発展の道のりをより速く進むためには、さまざまな次元で国際的な優れた経験を活用すべきであると考えています。これは、わが国の名誉、尊厳、国家安全保障を維持しつつ、世界のすべての国々と協力し、文化的交流、商業交流を行う用意がある、というすべての国に対するメッセージとして重要だと考えられます。

【モジタバ・マレキリラン経営・ビジネス連合事務局長、リーム中産連】

(月曜日に掲載)